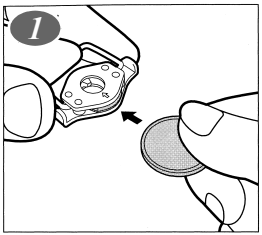
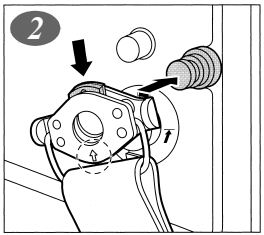
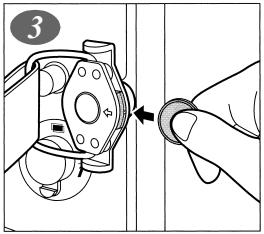
ストラップの取り付け



コインなどでファスナーのロック板を矢印方向に押すとロックが解除されます。



ファスナーの点線で示す矢印部分を手前に見えるようにして、穴を吊り金具に入れ、ロック板を元に戻すとロックされます。

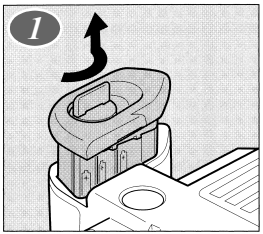


取り外すときは、手順 1 と同じようにロック板を矢印方向に押してください。

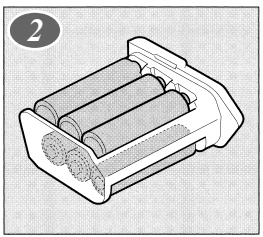
- ストラップの長さは、留め具で調整してください。
- ストラップの取り付け後、ストラップを引っ張り確実にロックされていることを確認してください。
- ストラップにはポケットがついていますので、小物入れとしてご利用ください。

電池のセット

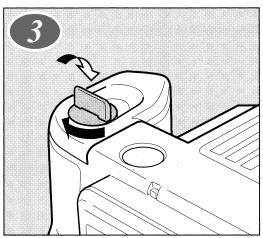
使用電池は、単3形リチウム電池および単3アルカリ電池です。



電池ホルダー着脱つまみを起こし、矢印方向に回して電池ホルダーを取り出します。



単3形電池6本を電池ホルダーの表示に合わせて入れます。



カメラに電池ホルダーを入れ、電池ホルダー着脱つまみを図の方向に回してロックをし、元の位置に戻します。

- このカメラは電池がないと動きませんので、操作をする前には、必ず決められた単3電池を6個入れてください。
- Ni-MH（ニッケル水素）充電池も使用できますが、使用回数・充放電方法など条件による特性のばらつきが大きく、低温での特性もあまりよくないため、できるだけ単3形リチウム電池か単3形アルカリ電池をご使用ください。

–つづく–

–つづき–

- 電池を交換するときは、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で行なってください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。
- カメラご購入時に同梱されている電池は作動確認用のサンプル電池です。従って右記のフィルム本数を撮影できないことがあります。
- 長い間使わないときは電池を取り出しておいてください。液漏れの原因となります。
- 電池を入れ替えてもフィルム感度やフィルム枚数はそのまま記憶されています。
- 撮影可能フィルム本数およびバルブ時間は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

［20℃］新品電池で当社試験条件による

	アルカリ電池	単3リチウム電池
120フィルム	約130本	約320本
220フィルム	約100本	約250本
バルブ露出時間	約8時間	約12時間

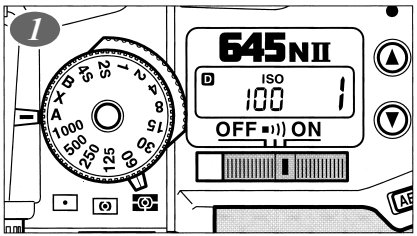
撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

［－10℃］新品電池で当社試験条件による

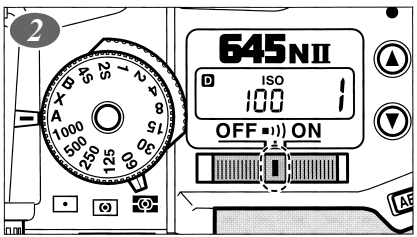
	アルカリ電池	単3リチウム電池
120フィルム	約7本	約120本
220フィルム	約5本	約90本
バルブ露出時間	約6時間	約10時間

- 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。
- 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。別売りのリモートバッテリーパック645（外部電源）を外部電源ソケットに差し込んでご使用いただくこともできます。

電源のON／OFF



電源スイッチをON位置にすると電源が入り、電源スイッチをOFF位置にすると電源が切れます。



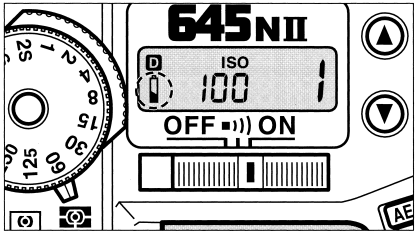
電源スイッチを位置にすると以下の条件で電子音が鳴ります。

- ピントが合ったとき
- 撮影可能枚数が残り1枚になったとき
- ミラーアップを行ったとき

- 使わないときは、必ず電源を切っておいてください。
  シャッターボタンが押されると電池が消耗します。
- 電源がOFF位置でも表示パネルのフィルム枚数表示は常に表示されます。

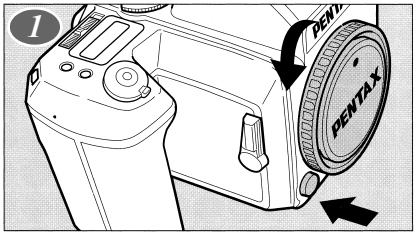
● 表示パネルの電池消耗警告 が点滅になると、ファインダー内の表示は消え、カメラが作動しなくなります。

電池消耗時の警告表示

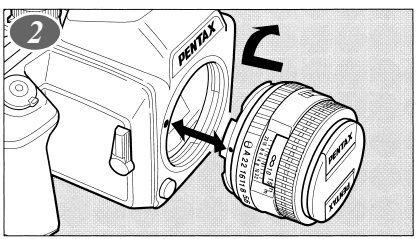


電池が消耗すると、表示パネルに電池消耗警告 が点灯します。お早めに電池を交換してください。(☞ 11ページ)
電池マーク が出たままでも、シャッターが切れれば露出に問題はありません。

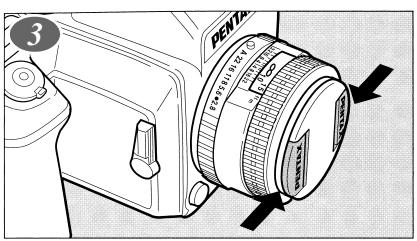
レンズの着脱



レンズの取り付け
レンズ取り外しボタンを押しながら、ボディーマウントキャップを外します。



レンズのマウントキャップを外しカメラとレンズの赤点のマウント指標を合わせて、レンズをカメラにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。



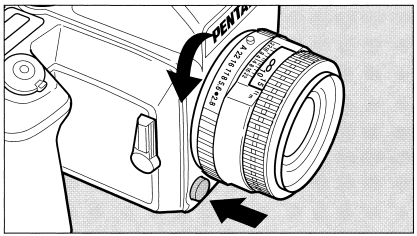
レンズキャップは、矢印部分を内側に押すと外れます。

- レンズ取り付け時は、レンズ取り外しボタンを押さないでください。レンズの取り付けが不完全になります。
- レンズ取り付け後は、レンズを取り付け方向とは逆に軽く回して、確実に取り付いていることを確認してください。
- オートフォーカス対応でない従来レンズ［Aレンズ］もこのカメラに取り付けてほとんどの機能がそのまま使用できます。
- 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。

–つづく–

–つづき–

- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。
- 外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を下にして置かないでください。

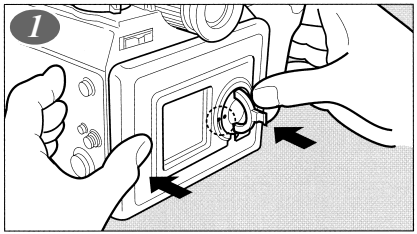


レンズの取り外し

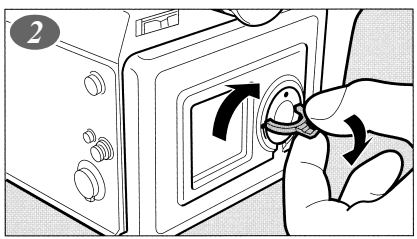
レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押したまま、レンズを左へ回してください。

120・220フィルムバック645の着脱方法

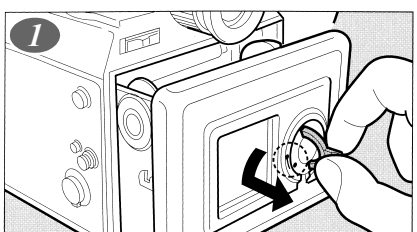
● フィルムバックの上下を逆にして無理に入れると故障の原因になります。



付け方
図の赤点部分が合っていることを確認後、フィルムバックの左右の端を「カチッ」と音がするまで押し込んでカメラに差し込んでください。



フィルムバック着脱つまみを右に90°回してロックします。フィルムバック着脱つまみは下に倒しておきます。



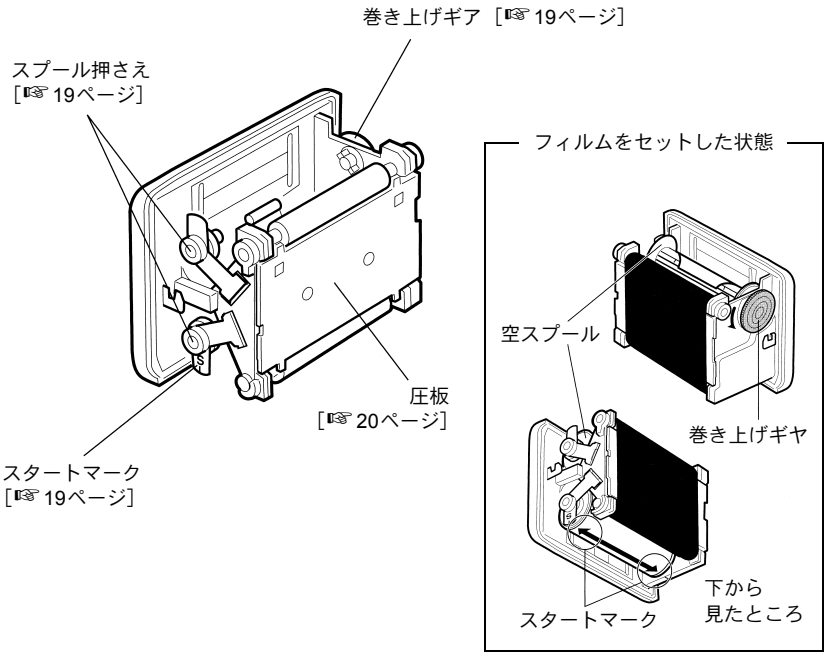
外し方
フィルムバック着脱つまみを起こして、赤点部分まで回し更に左に回すとフィルムバックが外れます。

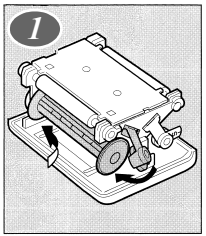
フィルムのセット

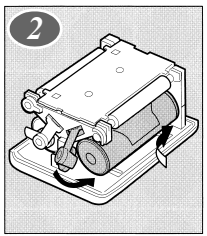
フィルムを入れた後、必ずフィルム感度の設定を行ってください。☞21ページ

フィルムバックの種類について

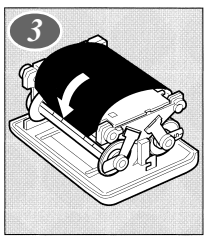
120 フィルムバックは 120 フィルム専用、220フィルムバックは220フィルム専用です。必ずフィルムの種類にあったフィルムバックをご使用ください。異なった種類のフィルムを装填すると、ピントがずれたり、巻き上げの動作が正常に行われなくなります。

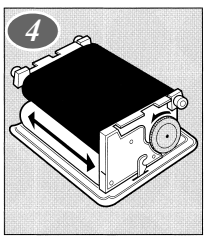




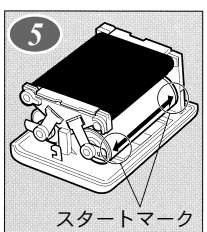


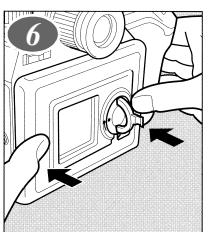
空スプールを図の位置に入れ、スプール押さえで止めます。
新しいフィルムのシールをはがし、黒い何も書いていない面が外側になるようにフィルムバックに入れ、スプール押さえで止めます。





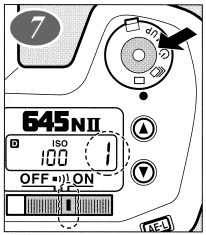
フィルム先端を空スプールの溝に差し込みます。
フィルムを軽く押さえながら巻き上げギヤを矢印方向に回します

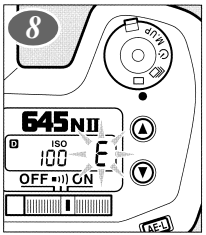




巻き上げギヤを回していくと、スタートマーク（矢印）が出てくるので、フィルムバックのスタートマーク S（赤線）に合わせます。
フィルムバックをカメラにセットします。

- 220 フィルムの場合、スタートマークの矢印の前に点線のマークが出てきます。この点線をフィルムバックのスタートマークに合わせると、最初の約3枚分が未露光となります。
- スタートマークより後側に合わせると、最後のコマが正しく露光されなくなります。





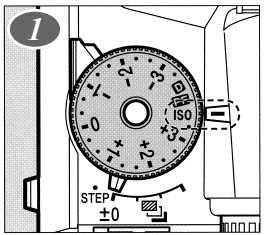
電源スイッチをONにして、シャッターボタンを押すと自動的にフィルムが1枚目まで送られ、表示パネルに[1]が表示されます。
表示パネルの[E]表示が点滅しているときは、フィルムが正しく入っていません。もう一度正しく入れ直してください。

- 手順7で、シャッターボタンを押す前には、表示パネルに[0]が表示されます。
- 多重露出がセットされている状態では、表示パネルのフィルム枚数の[0]が点滅します。多重露出を解除し、シャッターボタンを押し直してください。
- フィルムには直射日光が当たらないようにご注意ください。
- カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

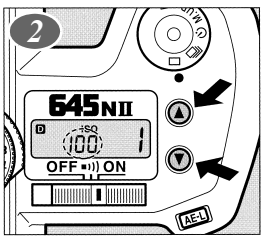
- 表示パネルのフィルム枚数表示は、撮影するごとに1つずつ進みます。(順算表示)
  この表示は、ペンタックスファンクションの設定により逆算表示(撮影可能残数表示)に変更も可能です。(☞80ページ)
- フィルム傷の原因になりますので、圧板は常にきれいにしておいてください。ごみや汚れが付いたときは、きれいな布で拭いてください。
- 空スプールの溝から飛び出たフィルム先端部分はスプールに沿って折り曲げてください。フィルムのゆるみや太巻きによる感光の原因になります。
- フィルムの入っていないフィルムバックをカメラに取り付けた場合、まれに表示パネルの[E]表示が点滅します。この場合、フィルムバックの着脱を何度かして[E]表示が消えればそのままお使いいただけます。
- 撮影途中でのフィルムバックの交換はできません。
- 撮影可能枚数は、120フィルムバックで15枚、220フィルムバックで32枚ですが、ペンタックスファンクションの設定により変更が可能です。(☞82ページ)
- 電源スイッチが位置になっていると、撮影可能枚数が残り1枚になった時点で電子音が約3秒鳴り、撮影可能枚数が少なくなったことを知らせます。

フィルム感度の設定方法

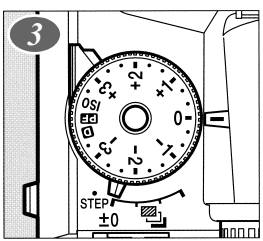
- 露出補正ダイヤルを 0 位置から外すときは、露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら回します。
- 露出補正ダイヤルが ISO 位置では表示パネルの ISO 表示が点滅し、ファインダー内の表示は消えます。
- 露出補正ダイヤルが ISO 位置ではシャッターは切れません。
- フィルム感度はISO6～6400の間で1/3段階毎に設定できます。
- フィルムバックのメモホルダーに使用フィルムの箱のふたを切り取って入れ、フィルム種類の確認用としてご利用ください。
- 表示パネルのフィルム感度値とISO表示は電源がONであれば常に表示されます。



露出補正ダイヤルを回し、ISO 位置にします。

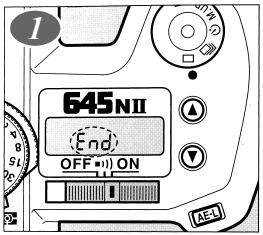


アップ／ダウンボタンで感度を設定します。
アップボタン▲では数字が大きい方に、ダウンボタン▼では数字が小さい方に変化します。

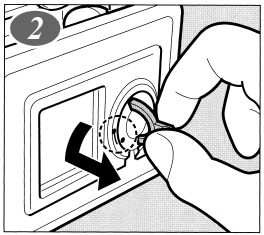


設定終了後、露出補正ダイヤルを 0 位置に戻します。

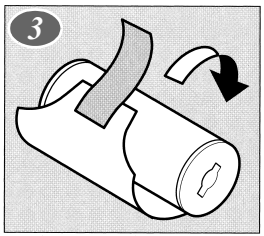
フィルムの取り出し



フィルムを最後まで撮り終えると、自動的に巻き取って停止し、表示パネルに End が表示されます。



フィルムバックをカメラから外します。

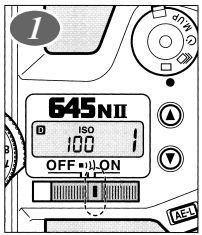


フィルムバックを取り出し、先端を内側に折り曲げてからフィルムに付いているシールでフィルムがたるまないように止めてください。

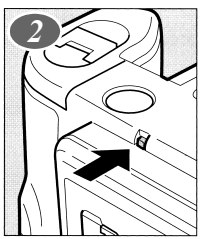
- フィルムには直射日光が当たらないようにご注意ください。
- フィルムをシールで止めるときに、あまり強く巻きすぎると、圧力カブリ（圧力でフィルムが感光したようになる現象）を起こすことがあるのでご注意ください。
- フィルムバックを外すと表示パネルのフィルム枚数表示は消えます。

フィルムの途中巻き取り

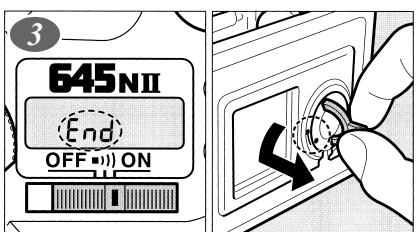
フィルムを最後まで撮り終わらないうちに、途中で取り出したいときに使います。



電源スイッチを ON 位置にします。



途中巻き取りボタンをペンの先などで押すと、フィルムを最後まで巻き取ります。

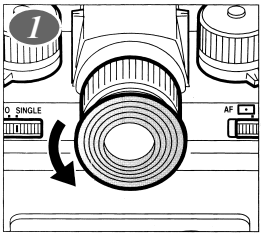


表示パネルの End 表示を確認してから、フィルムバックをカメラから外しフィルムを取り出します。End が表示されないときは、再度途中巻き取りボタンを押してみてください。

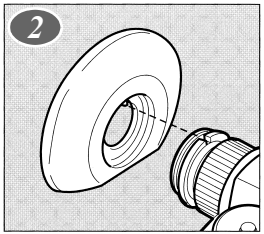
- 途中巻き取りボタンは止まる位置まで完全に押し込んでください。フィルムが正しく巻き取られていない場合があります。
- フィルム巻取り中は、表示パネルのフィルム枚数表示が順に増えていきます。

大型アイカップの取り付け

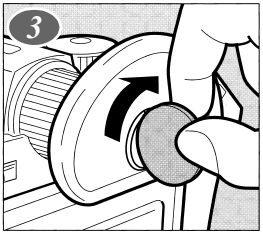
このカメラには、標準のアイカップの他に大型のアイカップが付属しております。お好みで使い分けてください。



図の部分を左に回して標準アイカップを外します。



大型アイカップの固定ピンとアイピースの溝を合わせて取り付けます。

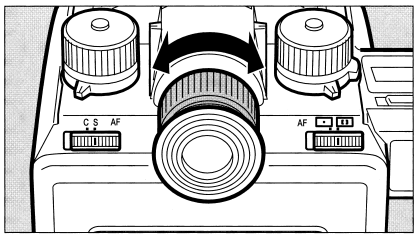


コインなどを溝に入れて右に回して固定します。

- 大型アイカップを外すときは逆の操作で行います。
- レフコンバーターなどのアクセサリーを取り付けるときは、アイカップを外してから行います。
- 1円、50円などの小さな径の硬貨を使用すると、ファインダーの接眼レンズに接触し、傷を付ける恐れがあります。

ファインダーの視度調整

- 視度の調整範囲は、−3.5〜＋1m^{-1}［毎メートル］です。
- 視度調整はご使用前に必ず行ってください。



視度調整リングを回し、ファインダー内のAFフレーム［ ］の線が最もはっきり見える位置に調整します。
視度は時計方向に回すと−側、反時計方向に回すと＋側に調整されます。